

会 議 要 旨

会 議 の 名 称	令和7年度第3回川越市地域包括支援センター等運営協議会
開 催 日 時	令和8年2月4日（水） 14時00分 開会 ・ 15時30分 閉会
開 催 場 所	ウェスタ川越2階活動室1・2（川越市新宿町1-17-17）
会 長 氏 名	廣瀬哲也会長
出席委員氏名	廣瀬会長、大塚副会長、岡持委員、高橋委員、酒井委員、佐藤委員、近内委員、柴委員、西内委員、岡野委員、井上委員、粕谷委員、松田委員（13名）
欠席委員氏名	筒井委員、水村委員（2名）
事務局職員氏名	介護保険課 中村課長、新井副課長、辻本副主幹 地域包括ケア推進課 富田課長、内藤主幹、平沼主査、三ツ目主査、石川主事、鈴木保健師 福祉相談センター 高橋所長、塩野主任（11名）
オブザーバー	川越市地域包括支援センターきた 安原氏 " 中央ひがし 新井氏 " 中央にし 五位野氏 " ひがし 渡邊氏 " たかしな 廣川氏 " みなみ 佐々木氏 " だいとう 赤沼氏 " かすみ 藤原氏 " にし 村田氏 (9名)
配布資料	1 次第 2 委員名簿 3 資料1 令和7年度第2回川越市地域包括支援センター等運営協議会 会議要旨（案） 4 資料2 地域密着型サービス事業所の指定等について 5 資料3 令和8年度川越市地域包括支援センター運営方針（案） 6 資料4 予防給付ケアプラン・介護予防ケアマネジメント委託居宅支援事業所の承認について（令和7年度新規） 7 参考資料1 認知症初期集中支援チームの活動状況について

	8	参考資料2 第14回健康寿命をのばそう！アワード（介護 予防・高齢者生活支援分野）表彰事例一覧 （当日配布資料）
	9	委員名簿名簿
	10	答申書
	11	【チラシ】ねんりんピック彩の国さいたま2026
	12	【チラシ】第6回めぐり逢エールかわごえ

議 事 の 経 過

	1 開 会
	2 あいさつ ・傍聴人の確認<傍聴人なし>
	3 報 告
事務局	(1) 令和7年度第2回川越市地域包括支援センター等運営協議会について 【資料1】を基に事務局より報告。
会長	意見・質疑はあるか。
委員	(意見・質疑なし)
事務局	(2) 地域密着型サービス事業所の指定等について 【資料2】を基に事務局より報告。
会長	意見・質疑はあるか。
委員	今まで通っていた利用者は指定を受けたことによる影響はあったか。
事務局	指定を受けた4か所のうち3か所は新規開設。1か所は通所リハビリテーションからの移行となり、市外にお住まいで要介護認定を受けている方がいけば地域密着型サービスとなるため利用ができなくなる。また、要支援の方であれば総合事業の申請を行っていると考えられるため、今まで通りの利用は可能。今回、事業所から事前に問合せや相談がなかったため、基本的に利用できなくなる方はいなかったと考えている。
委員	移行した1か所について補足説明。利用者のうち市外の方はおらず。ただ、単価が上がる要支援の方や比較的遠いところから来ている方には、事前に説明をした上で、もし他の施設を希望する場合は引継ぎし移行している。
会長	意見・質疑はあるか。
委員	(意見・質疑なし)
	4 議 事
事務局	(1) 令和8年度川越市地域包括支援センター運営方針(案)について 【資料4】を基に事務局から説明。

会長	意見・質疑はあるか。
委員	(意見・質疑なし)
会長	(1) について承認でよろしいか。
委員	(異議なし)
事務局	(2) 予防給付ケアプラン委託居宅介護支援事業所の承認について【資料5】を基に事務局から説明。
会長	意見・質疑はあるか。
委員	(意見・質疑なし)
	6 その他
事務局	(1) 認知症初期集中支援チームの活動状況について【参考資料1】を基に事務局から説明。
会長	意見・質疑はあるか。
委員	特に2事例目は、民生委員から地域包括支援センターへ相談し、地域包括支援センターから認知症初期集中支援チームへつながっている。住民と専門家の連携、地域包括支援センターと認知症初期集中支援チームの連携が図れており、ネットワークで課題解決に導いている分かりやすい事例。住民は連携の大切さを頭では理解しているものの、具体的にどう連携し、どうネットワークが活かされて課題の解決に至っているか、流れを知る人はあまりいない。なんとなく大切だろうと思いつつ、イメージが出来ていないため、なかなか支援につながらないケースもあると感じる。こういったケースを住民と共有するのは難しいだろうが、可能な範囲で認知症初期集中支援チームが果たす役割を伝えることで、より地域での早期発見・早期対応につながるのではと思う。
委員	他市町村の認知症施策は、現場のスピード感やニーズにどうしたら追いつくのかを考えながら行っている。地域包括支援センターの総合相談でも、認知症の症状があり、生活が上手くいかない方は多数いると聞いている。ニーズの総数から考えて今の対応件数をどう考えているか。
事務局	認知症の方の人数も増え、地域包括支援センターの認知症に関連した相談

委員	<p>件数も増えている。その中で、地域包括支援センターの対応力は向上していると感じている。また、調整等にも時間がかかり、医師会から派遣されるサポート医の確保も課題となっている。初期集中支援チームの支援は対応件数ではなく、必要な方に1件1件丁寧に関わることを重視している。</p> <p>参考までに他市町村では、認知症施策の捉え方や事業の活用の仕方を変えていかないとニーズに追いつかないと感じているところもある。初期集中支援チームを利用するタイミングは、「なぜここまで」と思う段階か、まずは早い段階で現状を把握し診断が必要ななら診断するか、どちらが良いのか考えている。また、初期集中支援チームだけが役割を果たすわけではなく、認知症施策の全体像から複数を組み合わせることができる形を作ろうと検討している市町村が主流。「医療につながったら終了」「6ヵ月で何とかしないといけない」が基本とはいえ、経過を長くめぐり方や早い段階で関わる方を考えたときに、他の取組と併せた全体像の検討やビジュアル化して市民に分かるようにすることで、地域包括支援センターも支援がしやすくなると思う。医療介護フォーラムで認知症（MCI）本人である市民が「私たちの話をちゃんと聞いて」「継続的に支援してほしい」という話があった。それについても考えてほしい。</p>
会長	<p>医師の確保が困難で認知症初期集中支援チームが運営できない地域もあると思うが、現実として地域包括支援センターの相談件数は増えている。認知症初期集中支援チームは、地域包括支援センターの困難を解決する方法の1つだと思うが、それについてどう感じているか。またいずれにしても、認知度を上げることは大事だと考える。</p>
オブザーバー	<p>2事例とも当センターで担当したケース。2事例目の方は医師に専門的な診断をしてもらえたことで、そこから精神科デイケアにつながった。仕事をしてきた方で、これからも仕事をしていきたい気持ちがあり、仕事という体裁をとり、デイケアに行くことができ他のサービスにつながった。このような医師の見立てで進めたことは心強かった。</p>
会長	<p>他に、意見・質疑はあるか。</p>
委員	<p>(意見・質疑なし)</p>
事務局 オブザーバー	<p>(2) 第14回健康寿命をのぼそう！アワード（介護予防・高齢者生活支援分野）における受賞について</p> <p>【参考資料2】を基に事務局及び地域包括支援センター中央ひがしから説明。</p>

会長	意見・質疑はあるか。
委員	このアワードは非常に注目度の高い賞で、自分が所属する団体でも、とても話題になった。川越愛が伝わる素晴らしいマップ。市民にとっても愛着がある資料かと思う。いわゆる介護予防や健康寿命延伸だけではなく、つながりづくりや共生という視点でも活用してもらえないかと感じた。例えば、住民への勉強会で、このマップを見てできることや感じたことを挙げてもらうグループワークをすると良い。「ラジオ体操がある広場で茶話会ができないか」「マップの空白地帯があるが、そこで何か活動ができないか」等の提案が出てくるのではないか。住民目線で見ると、改めて出てくる意見や提案もある。また、協力店も増えているとのこと。勉強会の際に周知の範囲を広げて、住民だけでなく企業も巻き込んで地域のことを考える機会を設けることで、住民と企業のネットワークもつながりやすくなると考える。企業が住民のことを考えるきっかけづくりにもなる。幅広い視点で生かしてほしい。
委員	約10年前に埼玉県に同じような提案をし、同様の事業を県全体で実施していたことがある。それが今このような形で地域包括支援センターが中心になって作成しているとのこと、とても良いと感じる。特にリーフレットは手作り感があり、昔話や歴史や思い出等、作った人の実体験をもとに作成してあるのがとても良い。今は3号だが、1号・2号もほしい。また、他の地域包括支援センターでも作ってほしい。男性の事業参加が少ないのがいつでも課題だが、役割を持つことや書くこと、歴史が好きな方は多いので活用できるのではないか。
会長	1号・2号は内容が違うか。
オブザーバー	1・2号は地域の方の散歩コースを中心に作成し、思い出の短歌等も載せている。在庫が少なくなってしまったので、ホームページに掲載している物をご覧いただければと思う。
委員	ここえどマップは、自分が所属している施設もポイント付与の場になっている。ただ、店舗ではないのでポイントが貯まったときに市民に渡す景品をどうするか困った。当初は他イベント等で使用した景品(シャーペン等)のみを考えていたが、障害者用デイサービスも併設しているため、利用者の皆さんが作った人形やキーホルダーも併せて景品にした。今では、シャーペンよりも人形等手作りの物が良いという方が多く、好きなものを選んでいる様子。今回の取組をきっかけに、障害者デイサービスの利用者の方にも携わることができ、良い機会となっている。

委員	<p>他委員から「他の圏域でも作成してほしい」という話があったが、各地区の協議体でもぜひ話してもらいたい。他市町村だと SC がこのような取組を行っている。各地区の協議体メンバーとこのマップを見て「このような活動をどう思うか」とディスカッションを試みるのはどうか。場所と人とつながるような取組を検討するきっかけとしてほしい。このような事業がますます広がったら良いと期待している。</p>
会長	<p>店舗の協力がたくさんある。機会があれば取り組みたいところは多くあると思うので、そのような方にも協力してもらえものとなっている。</p>
事務局	<p>今回のここえどマップは、地域包括支援センター中央ひがしが継続して取り組んでいたため、事務局から応募するよう促したが、他の地域包括支援センターも地域の実情に応じて様々な取組を行っている。地域の特性があるため、他の地域包括支援センターで同じような取組は難しいところもある。しかし、今回の取組をヒントにそれぞれの地域の実情と住民の声を聴いて、現在もさまざま取り組んでいる。他にも、地域包括支援センターが発表できる取組はあると思うので、今後も継続して応募できるよう考えていく。このマップをツールとして、それぞれの地域で話をするのは良いと考えている。地域包括支援センター長同士は連携できているため、今後一緒に取り組んでいきたいと思う。</p>
会長	<p>他に、意見・質疑はあるか。</p>
委員	<p>(意見・質疑なし)</p>
<p>7 閉 会</p>	